

平成21年度 教育行政評価シート（自己評価）NO.1

事務事業名 (予算事業名)	家庭教育推進事業 (生涯学習推進事業)	作成日	H22.8.1
		担当部名	市民協働部
		担当課名	生涯学習課

1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	1 豊かな心と生きる力の育成
体系項目	(1) 乳幼児期の子育て支援の充実
個別施策	① 乳幼児期から一貫した相談支援体制の充実

2 事業概要 (Plan)

戦略目標	事業を実施する目標を記入してください。 幼児期における教育は、生涯にわたり人格形成の基礎を培う重要な時期であり、発達や学びの連続性を踏まえ、主体的な活動を引き出す環境に配慮して、まちづくりセンター等を会場に乳幼児を持つ保護者を対象にした「乳幼児期子育て講座」や「子育てサポートリーダー養成講座」を開設し、健やかな「鹿嶋っ子」に成長できる子育てを支援していきます。
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

重要成功要因	戦略目標を達成するための要因を記入してください。 ①委託者との事業カリキュラム等の協議 ②事業の市民への情報提供 ③アンケートの実施・次期事業内容の検討
--------	---------------------------------------------------------------------------------------

対象及び規模	事業の対象とその規模（数値）を記入してください。			
	対象	市民と乳幼児を持つ保護者	規模	1,175人

予算科目コード	会計	01	款	10	項	05	目	01	事業名	生涯学習推進事業							
全体計画										20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度		
										(決算額：千円)	(決算額：千円)	(予算額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)		
投入コスト	事業経費	乳幼児期子育て講座								467	467	367	367	367	367		
		子育てサポートリーダー養成講座															
		講師・コーディネーター謝礼										291	260	223	223	223	223
		(消耗品費)										16	47	12	12	12	12
		(委託事務費)										150	150	100	100	100	100
		(その他の経費)										10	40	32	32	32	32
		合計【1】										467	497	367	367	367	367
		財源内訳	国県支出金														
地方債																	
その他(参加者負担金)																	
一般財源											467	467	367	367	367	367	
従事職員数	正規職員									0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05		
	その他職員									0	0	0	0	0	0		

根拠法令	教育基本法第10条ほか
------	-------------

事業の性質	法定受託事務		自治事務(義務)	○	自治事務(任意)	○	市民サービス建設事業		管理経費その他
事業期間	単年度	○	年度繰返し		期間限定		平成 年度から		平成 年度まで

国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	事業を取り巻く環境について記入してください。 教育基本法の改正により、家庭教育については第10条に「父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする」と規定され、国及び都道府県、市町村が家庭及び地域の教育力が向上するよう幼児期の子育て支援に努めています。
--------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 実績及び事業評価 (Check)

視点	評価項目	評価指標	評価指標根拠	判定
I 予算 執行 の 視点 30 %	【①コスト削減】 事業運営上、コスト削減の余地はあるか？ (民間委託、指定管理、他事業との統廃合、 一般入札の導入、IT化、長期継続契約等)	A：コスト削減率10%以上 B：コスト削減率10%未満 C：コスト削減率 0%	委託料の増減はありません。	C
	【②費用対効果】 予算額に対し、事業以外の付加価値はある か？(他市における同様の事業経費との比 較、担当者一人あたりの経費など)	A：付加価値が予算額10%以上 B：付加価値が予算額10%未満 C：付加価値なし	乳幼児期子育て10講座、リーダー養 成5講座の計15講座を実施。参加するこ とにより、子育てに悩む相談や参加者相互 に子育てへの理解を深める機会となり ました。	A
	【③計画性】 計画的な事業実施が行われているか？(計画 的な予算執行、事業実施計画などがあるか)	A：対計画実施率90%以上 B：対計画実施率80%~90%未満 C：対計画実施率80%未満	乳幼児期の子育て等の専門 NPO法人に委託し、委託者との 協議を経て事業を実施しまし た。	A
II 対象 者の 視点 30 %	【④顧客満足度】 事業実施後、顧客ニーズを把握し、事業を 実施しているか？(顧客満足度の結果、顧客満 足度調査の実施頻度など)	A：顧客満足度80%以上 B：顧客満足度60%から80% C：顧客満足度60%未満	参加者(延べ415人)①乳幼児期育 て講座(延べ368人)②リーダー養成講座 (延べ47人)参加者の意見から受講形 態やプログラム内容について好評を得 ました。	B
	【⑤コスト】 顧客一人あたりにかけるコストはどのくらい か？(顧客一人あたりが負担するコストはど のくらいか？→評価指標は逆転)	A：対昨年度比、10%以上高い B：対昨年度比、0%~10%未満 C：対昨年度比、安い	講座回数は各講座とも昨年度 と同数のため変化はありませ ん。	B
	【⑥時間】 顧客一人あたりにかける時間はどのくらい か？(顧客一人あたりが要する時間はどのく らいか？→評価指標は逆転)	A：対昨年度比削減率、10%以上 B：対昨年度比削減率、0%~10%未 満 C：対昨年度比、増加	講座回数は各講座とも昨年度 と同数のため変化はありませ ん。	B
III 事業 実施 過程 の 視点 30 %	【⑦ニーズの把握】 事業を導入する際、ニーズの把握を行った か？(市民参画の割合など)	A：市民参画率20%以上 B：市民参画率 0%~20%未満 C：市民参画なし	20年度参加者の意見・要望 等を参考に委託者と協議し事業 を実施しました。	A
	【⑧時間】 事業実施に伴う時間はどのくらいか？(打ち 合わせ(会議)時間の短縮率(質の向上)、 顧客の平均対応時間、情報の共有化など)	A：対昨年度比削減率、10%以上 B：対昨年度比削減率、0%~10%未 満 C：対策年度比、増加	講座回数は各講座とも昨年度 と同数のため変化はありませ ん。	B
	【⑨事業実施後の管理】 事業実施後の管理体制は確立しているか？ (事業委託、民営化、市民参画団体への委譲 後等の事業実施に対する管理体制)	A：管理体制確立、課題解決率10% B：管理体制確立、課題解決率0% C：管理体制確立せず	委託者側と事業後の打合せを 実施し、随時、対応の検討を行 いました。	A
IV 職員 育成 の 視点 10 %	【⑩業務改善】 業務の改善を行っているか？(業務の改善に 関する提案件数の達成率、管理費(義務的経 費は除く)のIT費用の割合など)	A：業務改善率、10%以上 B：業務改善率、0%~10%未満 C：業務改善なし	NPO法人と事前に前年度の 反省をもとにプログラムの改善 等に取り組みました。	A
	【⑪研修】 事業を効果的に行うために、研修を行ってい るか？(研修時間、組織内の研修受講割合な ど)	A：対昨年度比研修時間、10%増 B：対昨年度比研修時間、 5%増 C：対昨年度比研修時間、増減なし	前年度と同様です。	C
	【⑫技能向上】 資格の取得など、実務的な技能が向上した か。(資格取得、知識の共有化や結合理化件 数など)	A：対昨年度比、3件増 B：対昨年度比、1件増 C：対昨年度比、増加なし	前年度と同様です。	C

4 自己評価結果 (Action)

総合 評価	Aを10点、Bを7点、Cを5点とし、そ れぞれの項目の結果の合計に視点毎の割合を かけ(最高30点)、上記IからIVの視点に よる事業評価に基づく総合評価を行う。	点数	23.9	A：合計点が24点以上 B：合計点が21点~23点 C：合計点が20点以下	総合評価結果	B
本 評価 に 基 づ く 事業 の 改善 策	現状	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 NPO法人に委託し、まちづくりセンター等を会場に乳幼児を持つ保護者を対象にした「乳幼児期子 育て講座」や「子育てサポートリーダー養成講座」を開設し、健やかな「鹿嶋つ子」に成長できる子 育てを支援しています。乳幼児期子育て10講座、リーダー養成5講座の計15講座を実施し、参加す ることにより、子育てに悩む相談や参加者相互に子育てへの理解を深める機会となりました。参加者 の意見から受講形態やプログラム内容について好評を得ました。※参加者延べ415人①乳幼児期育 て講座(延べ368人)②リーダー養成講座(延べ47人)				
	課題	現状認識を踏まえた課題について記入してください。 参加者からは事業の定期的・継続的な開催、講座の増設要望や、恒常的に子どもが遊び・親が語れ る場の確保の要望がありました。また、事業実施の情報提供の改善が求められました。				
	改善策	課題に対する改善策を、期限や具体的な数値などを記入してください。 講座の財源の確保に努め、こども福祉課と連携し、恒常的に遊び・語り合う居場所確保の検討を行 います。 事業の情報提供の手法を検討し、多くの皆さんが参加できる事業とします。				

平成21年度 教育行政評価シート（自己評価）NO.2

事務事業名 (予算事業名)	読書活動の推進 (学校図書館経費(小学校))	作成日	H22.8.3
		担当部名	教育委員会
		担当課名	鹿嶋っ子育成課

1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画(後期)における位置づけ		
重点目標	1	豊かな心と生きる力の育成
体系項目	(2)	生きる力の育成
個別施策	(3)	読書活動の充実

2 事業概要(Plan)

戦略目標	事業を実施する目標を記入してください。
	子どもたちは、主体的・積極的に本を読むことで「言葉を学び・感性を磨き・表現力を高め・想像力を豊かに」していきます。学校図書館でよい本に出会える環境を整え、自ら興味を持って調べ学習にも取り組める環境づくりをします。

重要成功要因	戦略目標を達成するための要因を記入してください。
	①身近なところに多様な興味を引き出す本が沢山あり、読みたい本が探しやすい
	②全小学校に学校図書館司書を配置し、きめ細やかなレファレンスの実施
	③児童が本を読みたくなる空間の整備と本のスムーズな貸出 ④児童(教師)にとって魅力ある図書を購入できる予算の確保

対象及び規模	事業の対象とその規模(数値)を記入してください。		
	対象	小学生	規模

予算科目コード	会計	01	款	01	項	02	目	02	事業名	学校図書館経費(小学校)					
全体計画										20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
										(決算額:千円)	(決算額:千円)	(予算額:千円)	(計画額:千円)	(計画額:千円)	(計画額:千円)
投入コスト	事業経費	報酬								8,452	8,778	11,480	15,767	20,283	18,046
		需用費(消耗,印刷)								1,759	1,459	1,639	3,452	3,661	3,872
		委託料・使用料及び賃借料								6,393	4,818	7,347	10,859	12,445	14,028
		備品購入費								14,620	15,934	5,811	8,820	9,540	10,260
		合計【1】									31,224	30,989	26,277	38,898	45,929
財源内訳	財源内訳	国庫支出金													
		地方債													
		その他													
		一般財源									31,224	30,989	26,277	38,898	45,929
従事職員数		正規職員							0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	
		その他職員													

根拠法令	子どもの読書活動推進に関する法律 学校図書館法
------	----------------------------

事業の性質	法定受託事務	自治事務(義務)	○	自治事務(任意)		市民サービス建設事業	○	管理経費その他	
事業期間	単年度	○	年度繰返し		期間限定	平成19年度から		平成	年度まで

国・県・他自治体の動向, 又は市民, その他の意見等	事業を取り巻く環境について記入してください。
	子どもの読書推進に関する法律で、市町村は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の状況を踏まえ、子どもの読書活動を推進する施策について、計画を策定するよう努めなければならないと定められています。

3 実績及び事業評価 (Check)

視点	評価項目	評価指標	評価指標根拠	判定
I 予算執行の視点 30%	【①コスト削減】 事業運営上、コスト削減の余地はあるか？	A：コスト削減率10%以上 B：コスト削減率10%未満 C：コスト削減率 0%	現在、学校図書館の整備途中なので全体でのコスト削減は難しいですが、内容を精査し、パソコンの導入などで一部効率化が図れました。	B
	【②予算措置率】 地方交付税に算入される図書購入費を予算化しているか（基準財政需要額）	A：予算化率100% B：予算化率80%以上100%未満 C：予算化率80%未満	地方交付税に算入される図書費6,450千円に対し、10,459千円の予算を配当しました。	A
	【③計画性】 計画的な予算執行が行われていたか？	A：予算執行率98%以上 B：予算執行率90%～98%未満 C：予算執行率90%未満	98.7%の予算執行率であり、計画的に予算を執行しました。	A
II 対象者の視点 30%	【④児童一人辺りへ貸出冊数】 児童ひとり一人が積極的に学校図書館を利用しているか？ *学校図書館実施校（4校）のみ	A：年間貸出冊数 50冊以上 B：年間貸出冊数 30冊以上50冊未満 C：年間貸出冊数 30冊未満	学校図書館実施校4校の総貸出冊数は88,267冊で、各校児童1人あたり年間平均59.1冊の成果を上げました。	A
	【⑤標準冊数】 児童（教師）か読みたい本が揃っているか。	A：標準冊数85%以上 B：標準冊数70%以上85%未満 C：標準冊数70%未満	H21年度末現在、学校図書館図書標準冊数の充足率は95%です。充足率は満たしてきています。学校によって古い本も多いため、新規図書の計画的な購入が必要と考えます。	A
	【⑥貸出時間】 児童が休み時間にいつでも借りられる環境は整っているか？	A：すべての休み時間で借りられる B：昼休みのみ借りられる C：学年で借りられる曜日、時間が限定されている	学校図書館整備校と未整備校との差があるため、計画的に整備していく必要があります。	C
III 事業実施過程の視点 30%	【⑦学校図書館整備率】 各小学校の学校図書館を整備し専任司書の配置及び図書のデータベース化等を行っているか？	A：学校図書館整備率80%以上 B：学校図書館整備率60～80%未満 C：学校図書館整備率顧客満足度60%未満	小学校12校中4校を整備しました。整備率は33%です。	C
	【学校図書館整備計画】 市独自の学校図書館整備計画を策定し、計画的に事業が進められているか。	A：策定済み B：策定予定 C：未定	平成22年度までに策定する予定です。	B
	【⑨司書教諭配置率】 12学級以上の学校に司書教諭を配置しているか？ *小学校12校中8校対象	A：司書教諭配置率100% B：司書教諭配置率90%以上100%未満 C：司書教諭配置率90%未満	法律に基づき、12学級以上の小学校全てに司書教諭を配置しています。	A
IV 職員育成の視点 10%	【⑩図書館活用状況】 調べ学習やブックトークなど学校図書館を積極的に利用しているか？*学校図書館実施校（12校中4校）	A：全ての学年が授業等で利用している B：一部の学年のみが授業等で利用している。 C：授業での利用はない	一部の学校では積極的に利用が図られていますが、学校図書館司書の活用についても、今後研究していく必要があります。	B
	【⑪図書資料目録の作成】 教科用図書に沿った図書資料目録を作成し、図書館が授業で利用しやすい環境となっているか？*学校図書館実施校（12校中4校）	A：図書目録作成率90%以上 B：図書目録作成率60%以上90%未満 C：図書目録作成率61%未満	学校図書館実施校5校全ての学校で作成し、教師に情報提供しています。	A
	【⑫研修】 専任司書のスキルアップに必要な研修を実施しているか？（研修時間、組織内の研修受講割合など）	A：対昨年度比研修時間、増 B：対昨年度比研修時間、増減無 C：新年度実施に向け、調整中	平成22年度に専門的な研修の実施に向けて、準備をしています。	C

4 自己評価結果 (Action)

総合評価	Aを10点、Bを7点、Cを5点とし、それぞれの項目の結果の合計に視点毎の割合をかけ（最高30点）、上記IからIVの視点による事業評価に基づく総合評価を行う。	点数	24.4	A：合計点が24点以上 B：合計点が21点～23点 C：合計点が20点以下	総合評価結果	A
本評価に基づく事業の改善策	現状	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 学校図書館の整備された学校では、図書も整理され子どもたちが利用しやすい環境が整ったことにより、読書量も増えています。また、司書教諭と学校司書が連携してさまざまな読書イベントが開催され、子どもたちを読書の世界へ誘っています。また、学校図書館実施校4校の総貸出冊数は88,267冊で、各校児童一人あたり年間平均59.1冊の成果を上げました。				
	課題	現状認識を踏まえた課題について記入してください。 学校図書館に人的な配置やシステムの導入、蔵書の充実を図ったとしても、活用しなければ効果がありません。今後は、早期に小学校12校を同一の環境に整備するとともに教員と学校司書との連携を検討し、より充実した活用方法を見出していく必要があります。				
	改善策	課題に対する改善策を、期限や具体的な数値などを記入してください。 学校図書館司書について活用方法の研究を行い、今後の整備計画の策定に反映させていきます。また、学校図書館図書標準冊数に届かない学校については、平成24年度を目標に整備をしていきます。				

平成21年度 教育行政評価シート（自己評価）NO.3

事務事業名 (予算事業名)	フロンティア・アドベンチャー事業 (青少年育成対策経費)	作成日	H22.8.1
		担当部名	市民協働部
		担当課名	生涯学習課

1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	1 豊かな心と生きる力の育成
体系項目	(2) 生きる力の形成
個別施策	④ 体験活動の充実

2 事業概要 (Plan)

戦略目標	事業を実施する目標を記入してください。
	青少年の心の豊かさやたくましさを育みながら、生きる力や忍耐力、自立心、協調性を養うために、福島県国立那須甲子青少年自然の家(キャンプ場中心)にて、小学校5年生及び6年生を対象に10泊11日の長期の自然体験活動を実施しています。

重要成功要因	戦略目標を達成するための要因を記入してください。
	①現地視察、カリキュラムの検討
	②実行委員会の立ち上げ
	③指導者確保及び研修会の実施
	④保護者アンケートの実施及び分析、体験紀の発行

対象及び規模	事業の対象とその規模（数値）を記入してください。		
	対象	小学校5年生及び6年生	規模

予算科目コード	会計	01	款	10	項	05	目	03	事業名	青少年育成対策経費							
全体計画										20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度		
										(決算額：千円)	(決算額：千円)	(予算額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)		
投入コスト	事業経費	原材料費(食材・薪等)								1,689	1,788	1,788	1,788	1,788	1,788		
		報償費(指導者等謝金)									1,215	1,117	1,117	1,117	1,117	1,117	
		使用料及び賃借料(バス借上等)									430	382	382	382	382	382	
		体験紀印刷製本費ほか									395	456	456	456	456	456	
		消耗品費									134	137	137	137	137	137	
		医薬材料費									53	82	82	82	82	82	
		その他									384	438	438	438	438	438	
		合計【1】									4,300	4,400	4,400	4,400	4,400	4,400	
		財源内訳	国県支出金														
			地方債														
その他(参加者負担金)										2,100	2,100	2,100	2,100	2,100	2,100		
一般財源									2,200	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300			
従事職員数	正規職員								0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2			
	その他職員								0	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05			

根拠法令	
------	--

事業の性質	法定受託事務		自治事務(義務)	○	自治事務(任意)	○	市民サービス建設事業		管理経費その他
事業期間	単年度	○	年度繰返し		期間限定		平成 年度から		平成 年度まで

国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	事業を取り巻く環境について記入してください。
	文部科学省では、教育再生会議二次報告(2007)を受け、小学校で1週間の長期集団体験活動事業を学校教育における取り組みとして進めています。

3 実績及び事業評価 (Check)

視点	評価項目	評価指標	評価指標根拠	判定
I 予算 執行 の 視点 30 %	【①コスト削減】 事業運営上、コスト削減の余地はあるか？ (民間委託、指定管理、他事業との統廃合、 一般入札の導入、IT化、長期継続契約等)	A：コスト削減率10%以上 B：コスト削減率10%未満 C：コスト削減率 0%	市の委託費と参加者負担金で運営しま すが、平成15年度から負担金は同額で す。物価の変動もある中、全体事業費の 中で調整を行い実施しました。	C
	【②費用対効果】 予算額に対し、事業以外の付加価値はある か？(他市における同様の事業経費との比 較、担当者一人あたりの経費など)	A：付加価値が予算額10%以上 B：付加価値が予算額10%未満 C：付加価値なし	事後アンケートにより、参加した児 童の66%から変化があったとの回答 を得ています。これを数値に変える指 標は現在持ち合わせていません。	A
	【③計画性】 計画的な事業実施が行われているか？(計画 的な予算執行、事業実施計画などがあるか)	A：対計画実施率90%以上 B：対計画実施率80%～90%未満 C：対計画実施率80%未満	事前視察を行い、現地の状況 を確認し、全体事業費を踏まえ た中でプログラムを作成しまし た。	A
II 対象 者の 視点 30 %	【④顧客満足度】 事業実施後、顧客ニーズを把握し、事業を 実施しているか？(顧客満足度の結果、顧客 満足度調査の実施頻度など)	A：顧客満足度80%以上 B：顧客満足度60%から80% C：顧客満足度60%未満	事後アンケートにより、費用負担面や 児童の変化があったこと、さらにその 後の学校での児童について良い変化が表 れたと報告を受けています。	A
	【⑤コスト】 顧客一人あたりにかけるコストはどのくら いか？(顧客一人あたりが負担するコストは どのくらいか？→評価指標は逆転)	A：対昨年度比、10%以上高い B：対昨年度比、0%～10%未満 C：対昨年度比、安い	市の負担が前年度比に対して 4.5%アップしています。	B
	【⑥時間】 顧客一人あたりにかける時間はどのくら いか？(顧客一人あたりが要する時間はどの くらいか？→評価指標は逆転)	A：対昨年度比削減率、10%以上 B：対昨年度比削減率、0%～10%未 満 C：対昨年度比、増加	宿泊期間の変更がないため変 化はありません。	B
III 事業 実施 過程 の 視点 30 %	【⑦ニーズの把握】 事業を導入する際、ニーズの把握を行った か？(市民参画の割合など)	A：市民参画率20%以上 B：市民参画率 0%～20%未満 C：市民参画なし	事業実施後、参加した児童の保護 者へアンケートを実施しました。ま た、過去の応募者数から事業の実施 の決定を行っています。	A
	【⑧時間】 事業実施に伴う時間はどのくらいか？(打ち 合わせ(会議)時間の短縮率(質の向上)、 顧客の平均対応時間、情報の共有化など)	A：対昨年度比削減率、10%以上 B：対昨年度比削減率、0%～10%未 満 C：対策年度比、増加	本事業は、児童が安全・安心に活動 できることを第一に考慮し、事前視察 から綿密な打ち合わせが必要であり、 時間の削減に至っていません。	B
	【⑨事業実施後の管理】 事業実施後の管理体制は確立しているか？ (事業委託、民営化、市民参画団体への委 託後等の事業実施に対する管理体制)	A：管理体制確立、課題解決率10% B：管理体制確立、課題解決率0% C：管理体制確立せず	実行委員会を組織し、事業実 施後も事業の課題・反省を各担 当班別に総括し、次期事業へ活 かしています。	A
IV 職 員 育 成 の 視点 10 %	【⑩業務改善】 業務の改善を行っているか？(業務の改善に 関する提案件数の達成率、管理費(義務的経 費は除く)のIT費用の割合など)	A：業務改善率、10%以上 B：業務改善率、0%～10%未満 C：業務改善なし	課題・反省を踏まえ、医療関 係者の配置等改善を行いました。 た。	B
	【⑪研修】 事業を効果的に行うために、研修を行って いるか？(研修時間、組織内の研修受講割合 など)	A：対昨年度比研修時間、10%増 B：対昨年度比研修時間、5%増 C：対昨年度比研修時間、増減なし	事前研修は指導者1回、サブ (高校生)は2回実施しました。 さらに事後研修として課題・反 省を含め1回実施しました。	C
	【⑫技能向上】 資格の取得など、実務的な技能が向上した か。(資格取得、知識の共有化や結合化件数 など)	A：対昨年度比、3件増 B：対昨年度比、1件増 C：対昨年度比、増加なし	前年度と増減ありません。	C

4 自己評価結果 (Action)

総合 評価	Aを10点、Bを7点、Cを5点とし、そ れぞれの項目の結果の合計に視点毎の割合を かけ(最高30点)、上記IからIVの視点に よる事業評価に基づく総合評価を行う。	点数	24.5	A：合計点が24点以上 B：合計点が21点～23点 C：合計点が20点以下	総合評価結果	A
本 評 価 に 基 づ く 事 業 の 改 善 策	現状	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 青少年の心の豊かさやたくましさを育みながら、生きる力や忍耐力、自立心、協調性を養うために 実施している本事業は、市の重点事業として位置づけ、福島県国立那須甲子青少年自然の家(キャンプ 場)にて小学校5年生及び6年生を対象に10泊11日の長期の自然体験活動を実施しました。毎年、定 員70名に対して120名前後の応募があり、保護者及び児童から高い評価を受けている事業です。さ らに参加した児童保護者へのアンケート調査を行い、実行委員会にて事業実施後の事業の課題・反省 点を各担当班別に総括し、次期事業へ活かしています。				
	課題	現状認識を踏まえた課題について記入してください。 指導者の多くは、市内各小学校の教諭であり、一般指導者の拡充が課題です。				
	改善策	課題に対する改善策を、期限や具体的な数値などを記入してください。 本事業の参加者は、小学校5年生及び6年生であり、市内各小学校教諭の役割は重要です。また、一 般指導者の拡充は、教諭の負担を軽減することが狙いであり、継続した事業を展開するため青少年育 成団体との連携がますます重要となります。このため、各団体からの指導者協力について協議を進め ていきます。				

平成21年度 教育行政評価シート（自己評価）NO.4

事務事業名 (予算事業名)	小学4年生宿泊学習事業 (小学校教育研究費)	作成日	H22.8.19
		担当部名	教育委員会
		担当課名	鹿嶋っ子育成課

1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ		
重点目標	1	豊かな心と生きる力の育成
体系項目	(2)	生きる力の育成
個別施策	(4)	体験学習の充実

2 事業概要 (Plan)

戦略目標	事業を実施する目標を記入してください。 小学校4年生において宿泊学習を実施し、児童相互のコミュニケーションや自立心、協調、問題解決力等、様々な面での精神的成長を図ります。
------	----------------------------------------------------------------------------------------------

重要成功要因	戦略目標を達成するための要因を記入してください。 ①宿泊学習・自然体験により、小学校4年生の心身の成長促進 ②宿泊学習経費を教育委員会が予算計上することによる保護者の経済的負担の軽減
--------	---------------------------------------------------------------------------------------------------

対象及び規模	事業の対象とその規模（数値）を記入してください。 対象 小学校4年生 規模 642人
--------	-----------------------------------------------

予算科目コード	会計	01	款	10	項	02	目	02	事業名	小学校教育研究費					
全体計画										20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
										(決算額：千円)	(決算額：千円)	(予算額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)
投入コスト	事業経費	消耗品費								108	107	265	259	259	259
		食糧費								1,432	1,545	1,613	1,575	1,575	1,575
		宿泊費（会場借上料）								132	126	169	168	168	168
		自動車借上料								942	1,080	1,080	1,080	1,080	1,080
		合計【1】								2,614	2,858	3,127	3,082	3,082	3,082
		財源内訳	国県支出金												
	地方債														
	その他														
	一般財源								2,614	2,858	3,127	3,082	3,082	3,082	
従事職員数	正規職員								0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	
	その他職員														

根拠法令	法的な根拠はありません。
------	--------------

事業の性質	法定受託事務	自治事務（義務）	○	自治事務（任意）	市民サービス建設事業	○	管理経費その他
事業期間	単年度	○	年度繰返し	期間限定	平成 年度から	平成 年度まで	

国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	事業を取り巻く環境について記入してください。 経済情勢の好転が進まない中、経費（宿泊費、食糧費、バス等使用料、消耗品費）の全額を市が負担して小学校4年生での宿泊学習を実施することができ、児童の健全育成のため非常に効果的な事業です。
--------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 実績及び事業評価 (Check)

視点	評価項目	評価指標	評価指標根拠	判定
I 予算執行の視点 30%	【①コスト削減】 事業運営上、コスト削減の余地はあるか？ (民間委託、指定管理、他事業との統廃合、一般入札の導入、IT化、長期継続契約等)	A：コスト削減率10%以上 B：コスト削減率10%未満 C：コスト削減率 0%	宿泊地は、茨城県立白浜少年自然の家を中心に利用するので、施設使用料等の費用は、安価におさえることができました。	B
	【②費用対効果】 予算額に対し、事業以外の付加価値はあるか？(他市における同様の事業経費との比較、担当者一人あたりの経費など)	A：付加価値が予算額10%以上 B：付加価値が予算額10%未満 C：付加価値なし	自然体験、また親元を離れた宿泊によって、児童の心身の成長を促進する効果があります。	A
	【③計画性】 計画的な事業実施が行われているか？(計画的な予算執行、事業実施計画などがあるか)	A：対計画実施率90%以上 B：対計画実施率80%～90%未満 C：対計画実施率80%未満	各学校では、計画どおり実施しました。	A
II 対象者の視点 30%	【④顧客満足度】 事業実施後、顧客ニーズを把握し、事業を実施しているか？(顧客満足度の結果、顧客満足度調査の実施頻度など)	A：顧客満足度80%以上 B：顧客満足度60%から80% C：顧客満足度60%未満	具体的な調査は行なっていませんが、経費全額を市が負担するという点では、保護者満足度は高いと判断します。	A
	【⑤コスト】 顧客一人あたりにかけるコストはどのくらいか？(顧客一人あたりが負担するコストはどのくらいか？→評価指標は逆転)	A：対昨年度比、10%以上高い B：対昨年度比、0%～10%未満 C：対昨年度比、安い	県立の宿泊施設を利用することで、一人あたりにかかるコストも低く抑えられています。	B
	【⑥時間】 顧客一人あたりにかける時間はどのくらいか？(顧客一人あたりが要する時間はどのくらいか？→評価指標は逆転)	A：対昨年度比増加率、10%以上 B：対昨年度比増加率、0%～10%未満 C：対昨年度比、削減	各校とも1泊2日の行程で実施しました。	B
III 事業実施過程の視点 30%	【⑦ニーズの把握】 事業を導入する際、ニーズの把握を行ったか？(市民参画の割合など)	A：市民参画率20%以上 B：市民参画率 0%～20%未満 C：市民参画なし	「宿泊学習にかかる費用の経済的負担が大きい」という保護者のニーズを受け、本事業を実施しました。	A
	【⑧時間】 事業実施に伴う時間はどのくらいか？(打ち合わせ(会議)時間の短縮率(質の向上)、顧客の平均対応時間、情報の共有化など)	A：対昨年度比削減率、10%以上 B：対昨年度比削減率、0%～10%未満 C：対昨年度比、増加	各学校においては、宿泊施設等との打ち合わせを行いました。	B
	【⑨事業実施後の管理】 事業実施後の管理体制は確立しているか？(事業委託、民営化、市民参画団体への委譲後等の事業実施に対する管理体制)	A：管理体制確立、課題解決率10% B：管理体制確立、課題解決率0% C：管理体制確立せず	各学校は教育活動充実のため、教育委員会は費用について施設との打ち合わせを行いました。	A
IV 職員育成の視点 10%	【⑩業務改善】 業務の改善を行っているか？(業務の改善に関する提案件数の達成率、管理費(義務的経費は除く)のIT費用の割合など)	A：業務改善率、10%以上 B：業務改善率、0%～10%未満 C：業務改善なし	実施後に速やかに支払いをするために、施設との打ち合わせを随時行いました。	A
	【⑪研修】 事業を効果的に行うために、研修を行っているか？(研修時間、組織内の研修受講割合など)	A：対昨年度比研修時間、10%増 B：対昨年度比研修時間、5%増 C：対昨年度比研修時間、増減なし	年度始めには、他事業を含めた予算説明会を各学校に対して行いました。	C
	【⑫技能向上】 資格の取得など、実務的な技能が向上したか。(資格取得、知識の共有化や結合化件数など)	A：対昨年度比、増 B：対昨年度比、微増 C：対昨年度比、増加なし	学校・施設との打ち合わせを行い、事務処理の情報共有を図ることができました。	B

4 自己評価結果 (Action)

総合評価	Aを10点、Bを7点、Cを5点とし、それぞれの項目の結果の合計に視点毎の割合をかけ(最高30点)、上記IからIVの視点による事業評価に基づく総合評価を行う。	点数	25.6	A：合計点が24点以上 B：合計点が21点～23点 C：合計点が20点以下	総合評価結果	A
本評価に基づく事業の改善策	現状	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 宿泊地は、茨城県立白浜少年自然の家を中心に利用するので、施設使用料等の費用は、安価におさえることができました。自然の中での集団活動により、児童のたくましさや社会性を身につけることができ、併せて費用の全額を市が負担することで、保護者の経済的負担の軽減が図られています。				
	課題	現状認識を踏まえた課題について記入してください。 市費を投入していることから、事業実施により、児童にどのような変化が見られたかを検証する必要があります。				
	改善策	課題に対する改善策を、期限や具体的な数値などを記入してください。 実施した活動内容や実施後の児童の変化などについてアンケートを実施し、児童への効果を検証します。				